



空気はどうして木があるときれいになるの

町なかの空気

森に入るとすがすがしく、いい気持ちになります。森の中は、空気がきれいだといひはいますが、きれいな空気とは何でしょうか。空気のだいたい5分の4は窒素で、5分の1強が酸素で、そして残りの大部分がアルゴンで、次が二酸化炭素です。町なかでは、工場や自動車から二酸化炭素や、その他の有毒なガスがはき出され、いやなおいもします。また、ちりやほこりによごれています。町なかに木を植えると、緑がふえて見た目にもやさしい環境になり、木が汚れた空気をきれいにする働きをするので、住みやすくなります。

植物は二酸化炭素を吸い込み、酸素をはき出す

植物は、空気中の二酸化炭素を吸い込み、光合成で酸素を出しています。動物は、植物の作り出す酸素を吸って生きています。二酸化炭素が少なく、酸素の多い空気はおいしいのです。木の集まりである森林はきれいな空気の生産工場です。また、森林浴ということばがありますが、植物は独特の成分を、空気中に出しています。これを吸うと気持ちやすらぎます。さらに、森の中ではしめり気も多く、風もおさまりますので、空気中をただよっていた、ごみやほこりも地面に落ちたり、葉についたりして少なくなります。

(監修・中山 周平)

